

I 研究の背景とねらい

1 現状と課題

【子供たちの状況】

- 生命尊重の心の不十分さ、自尊感情の乏しさ、基本的な生活習慣の未確立、規範意識の低下、人間関係を形成する力の低下など、子供の心の活力が弱ってきている。
- 日本の子供たちの自己評価が、国際的に見て著しく低くなっている。
- 自己評価が他者との相対比較に左右されており、学習して豊かになるという自分を実感できない傾向がある。

【関連施策】

- 「次代を担う自立した青少年の育成に向けて— 青少年の意欲を高め、心と体の相伴った成長を促す方策について—」(答申)(平成19年1月 中央教育審議会)
- 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」(答申)(平成20年1月 中央教育審議会)
- 「東京都教育ビジョン(第2次)」(平成20年5月 東京都教育委員会)

「第7回世界青年意識調査」  
(平成16年1月 内閣府)

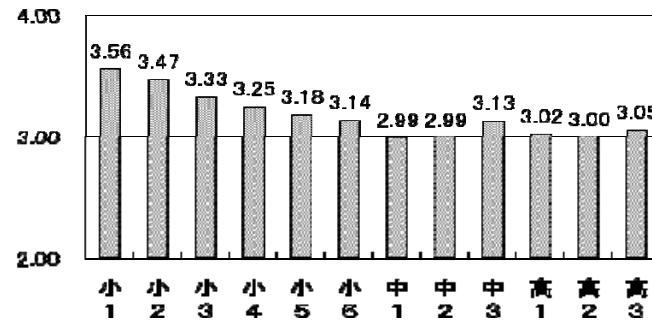
国際的な子供の意識調査の結果では、アメリカ合衆国や韓国等の諸外国と比べて、日本の子供たちは肯定的な回答をする者の割合が低いことが明らかになっている。

「平成19年度全国学力・学習状況調査報告書」  
(平成19年12月 東京都教育委員会)

「自分には、よいところがあると思いますか」の問いに東京都の小学生の約3割、中学生の約4割が否定的な回答を行っている。

「自尊感情に関する調査」  
(平成20年11月から12月 東京都教職員研修センター)

自尊感情は、小学校から中学校1年生まで次第に低下するが中学校3年生で上昇し、再び高等学校で低くなる傾向がある。



2 研究のねらい

子供たちが自分のよさに気づき、自信をもつことや他者と積極的にかかわり豊かな人間関係を築いていくことは、これからの社会における個人の役割や責任に対する自覚を涵養し、社会への参画意識を高める上で重要な課題である。この課題を解決するためには、幼児・児童・生徒一人一人が自分に自信をもち、新たなことや困難なことにも挑戦しようとする意欲を高めるための指導の工夫が必要である。そこで、幼児・児童・生徒の自尊感情や自己肯定感を高める指導の在り方を研究し、学校における指導の改善に資する指導資料を開発することをねらいとする。

3 自尊感情のとらえ方

自分の否定的な面を受容するとともに、物事に前向きに取り組み、様々な影響の中で自分を見失わず、可能性を信じて行動できることを目指した。これは、心理学者ローゼンバーグの、自分をそのまま受け止める「good enough」の考え方と一致しているととらえた。

4 自己概念との関連

自尊感情は、自己概念についての「良い、悪い」「好き、嫌い」といった評価の結果によって生じることから、自己概念と自尊感情は相互に影響を及ぼすと言われている。つまり、好ましい自己概念を育てることが、高い自尊感情を形成することになると言える。したがって学校等の指導・援助の場面において、子供たちの好ましい自己概念の形成をうながしていくことが、自尊感情を高めるうえで重要であると考えた。

5 目指す幼児・児童・生徒像

自分をかけがえのない存在だと思い、すすんで自分のよさを発見し、自信をもって行動する子供

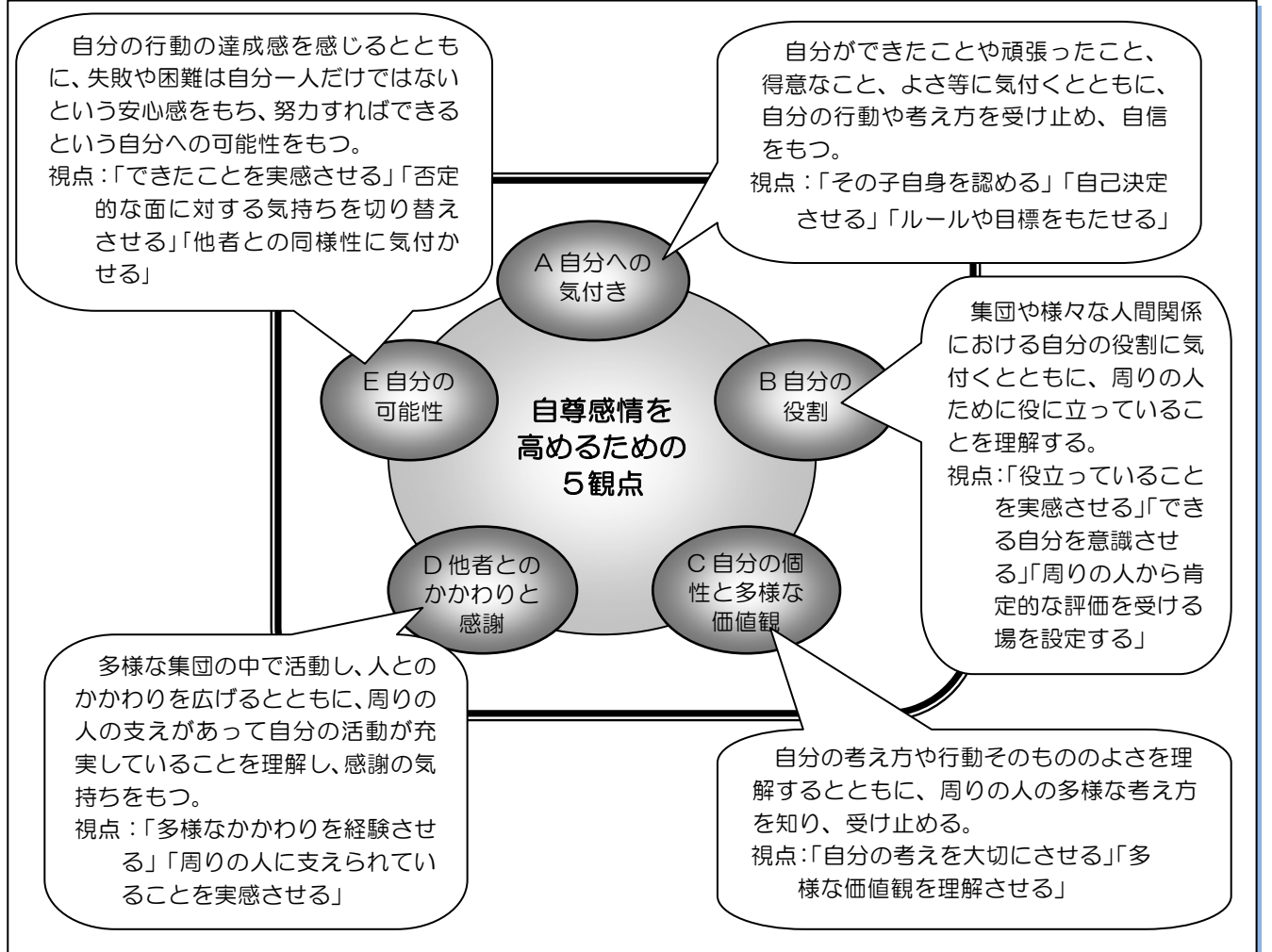
II 研究の成果

「自尊感情を高めるための発達段階に応じた指導上の留意点」(試案)の開発

1 開発の目的

日常の生徒指導をはじめ、各教科・領域等の指導において、教員が幼児・児童・生徒の自尊感情や自己肯定感を発達段階に応じて高めるための工夫・改善を図るために「自尊感情を高めるための発達段階に応じた指導上の留意点」を開発する。

2 自尊感情を高めるための5観点



3 幼児・児童・生徒の発達段階及び特徴

心理学者マズローやエリクソン等の研究を基に、発達段階を次の4段階に整理し、各段階における目指す幼児・児童・生徒像を示した。小学校教育【児童期】においては、学校での活用の在り方を踏まえ、「低学年」・「中学年」・「高学年」の3期に分けて示した。

- I 就学前教育【児童前期】: 自分は愛されていると思うとともに、みんなと一緒に行動する一人であると感じ、自分のことを大切にしようとする。
- II 小学校教育【児童期】  
低学年: 自分の行動が役に立っていると思うとともに、周りの人から認められていると思う。  
中学年: 自分が頑張ったことや満足したことが正しいと感じるとともに、得意なことがあると思う。  
高学年: 様々な考え方があるが、自分のよいところは、みんなにとって役に立っていると思うとともに、自分の力のできることがあると思う。
- III 中学校教育【思春期】: 他のは自分と異なる個性をもった大切な存在だと思うとともに、自分も個性をもった周りの人にとって大切な存在だと思える。
- IV 高等学校教育【青年期】: 組織や集団の中で、自分の特性を生かすことができるものがあると思えるとともに、多様な価値観が認められていると思える。